趣旨説明

よみがえる魚たちⅢ−里山・里地の自然再生と侵略的外来種の総合的防除

水辺の自然再生共同シンポジウム実行委員長
高橋　清孝

水辺の自然再生シンポジウムは2004年秋お大崎市鹿島台で最初に開催され、以降、多くの方々のご尽力とご協力により継続して毎年開催されています。本シンポジウムの最大の特徴は水辺の自然再生の最前線で活動あるいは研究されている方々にご講演をお願いし、最新知見をご紹介いただくことです。極めて貴重な講演が多く、会を重ねるたびに参加者から講演内容を集約した単行本の出版を要請されることが多くなりました。これを受けて、恒星社厚生閣から2007年に「ブラックバスを退治する」、2009年に「田園の魚をとりもどせ」、そして2017年7月に「よみがえる魚たち」を出版しました。これら3冊では本シンポジウムの講師に執筆を依頼し、シンポジウム実行委員長を務めた筆者が中心になって編集したものです。

最後の「よみがえる魚たち」は37名の著者に原稿を依頼し、企画から出版まで3年を要して完成することができました。本書では多くの講師が実践してきた自然再生活動、特に成功事例とそれを実現するための戦略と戦術を重点的に紹介しています。現況や実態の紹介にとどまらず、現有の技術と知識を駆使して解決策を提案することを重視した結果、多くの読者から支持を得ることができました。出版は本シンポジウム開催の大きな成果であります。今後も、水辺の自然再生活動を効果的に展開するための情報収集と意見交換の場としてシンポジウムを定期的に開催すると共に、出版活動も継続したいと考えています。

今回のシンポジウムでは里山の自然再生とそのために不可欠な侵略的外来種の防除を中心課題に設定しました。

私たちの身近な水辺で、開発、河川改修、農薬使用、ほ場整備、外来魚や移植魚の侵入などにより、これまで親しんできた魚たちが絶滅の危機に陥っています。私たちは、ブラックバスやブルーギルなどの侵略的外来魚を防除しながら自然再生と取り組み、豊かな自然を守ってきました。しかし、一方ではアメリカザリガニやウシガエルなどの被害が拡大し、各地で希少種が全滅するなど深刻な状況が続いています。これらの被害を軽減し長期にわたり生態系を保全するためには、総合的な取り組みが必要になっています。これらの取り組みに関する情報を共有するため、希少生物を保全するための積極的な戦略、長期的保全を可能にする地域ぐるみの取り組み、ブラックバスやブルーギルに加えてアメリカザリガニなどを駆除する総合的な防除の必要性と実際的な手法について紹介します。

第１部では、貴重な動植物が集中的に分布生息する里山・里地における自然再生の取り組みと戦略を紹介します。第２部では豊かな自然を守る活動に必要な情報を共有するため、知見の乏しいアメリカザリガニの生態、影響、対策について専門家から紹介していただきます。さらに今回は情報交換の場を増やすため、ポスター発表を企画しました。ここではシンポジウムテーマ５題に加え、自由テーマ６題を加えて、広範な情報提供と意見交換の場を設定しました。